

## めざすは日本一。 そして、その先の世界へ。 岐阜から、女子相撲の頂点をめざす。

岐阜大学地域科学部 2年 平田 百さん



近畿大学附属東広島高校出身。身長169cm。中量級。「岐阜木曜クラブ」で木曜と土曜の週2回、約2時間の稽古に励んでいます。ぶつかり稽古の合間には、丁寧に念入りにシコを踏む。「カラダを部分的に鍛えたいときは大学のジムに行きます。無料なのがうれしいですね」。

平田さんが相撲を始めたのは高校1年生。彼女の高い身体能力に惚れ込んだ顧問の先生にスカウトされたのがキッカケでした。「最初は見学だけのつもりが、体験してみたら“ビビビ”と感ずるものがあった。理屈じゃなく、とにかくすごく楽しかったんです」と相撲に一目惚れした平田さん。「真正面から激しくぶつかり合う立ち会いの緊張感。ルールは単純でも奥が深い。技と経験があれば自分より大柄な人を倒せる醍醐味。とにかく魅力的で、あっという間に夢中になりました」。

しかしなぜ、相撲部のない岐阜大学を選んだのでしょうか。「高校1年の冬に岐阜で合宿をしたことがあり、その時

の稽古場が『岐阜木曜クラブ』でした。そこで柴田先生や先輩たちのパワフルさに惹かれ、またこの道場で練習したいと強く思ったのです。合宿最終日に登った金華山は、今もお気に入りの場所。「最近、トレーニングと減量を兼ねて金華山に登っています。自転車で麓まで行って、馬の背コースを歩きます。71歳のベテラン登山家のお友達もできました(笑)」。足腰を鍛えるにはぴったりなのだとか。「何よりも自然に囲まれながらトレーニングできるのが最高です。山があって空気が綺麗な岐阜は、生まれ育った西条に似ていてホッとします」。

岐阜に来て2年目。これまでの主な成績は、全国大会3位、西日本大会3

位、県大会優勝と、素晴らしい結果を残しています。しかし平田さんは「運が良かっただけ。まだまだ、全然ダメです」と謙虚かつ冷静。「目標は、日本一になって世界大会へ出場することです」と高校時代から変わらぬ夢を力強く語ります。「上達するためには、稽古してコツを肌で感じるしかありません。反復練習あるのみです。もっともっと強くなりたい。今はこれしか考えられません」。相撲へのひたむきな情熱と決して諦めない粘り強さを秘めて邁進する平田さん。ここ岐阜から、女子相撲界の頂点をめざします。

## 平成23年度 入学式を行いました

平成23年4月7日(土)

長良川国際会議場にて平成23年度入学式を行い、学部学生1,363人、大学院学生591人が入学しました。森学長は「真摯に勉学に励み、国際社会や地球環境改善に関する議論に積極的に加わってほしい」と新入生を激励。学生代表は「震災で未曾有の危機のなか、入学の春を迎えることに感謝している。日本の復興を担う力を育みたい」と宣誓しました。また、8日(金)には大学院連合農学研究科、同連合獣医学研究科の入学式があり、46人の大学院学生が入学しました。



## コンビニに 広報プラザを開設!

平成23年4月

大学本部前にある福利厚生施設(コンビニ)内に、新しく広報プラザが開設されました。イトインコーナーに掲示板(インフォメーションボード)とパンフレットラックを設置。各学部・センターの概要や教育研究の内容を紹介し、本学の広報プラザとして情報発信を行っていきます。あわせて、コンビニ南側には石貼りテラス、北側にはウッドデッキテラスも増設されました。ぜひ、お立ち寄りください。



## 環境プロジェクト

### 「緑のカーテン ゴーヤーで夏を涼しく」

学生サークルの緑化研究会「three trees」が環境プロジェクトの一環として、大学本部棟の西側壁面にゴーヤーで緑のカーテンをつくりました。同研究会は岐阜県が企画する『平成23年度「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう!』の参加団体に選ばれ、5月17日(火)に県から配付されたゴーヤーの苗40株を植えました。夏の強い日差しを和らげ、自然の力で涼しく過ごす省エネ効果が期待される自然のカーテン。西日が差しこむ大学本部の部

屋も、青々と茂ったゴーヤーの葉が窓を覆い、日陰を作ってくれました。

8月9日(火)には、大切に育てたゴーヤーを収穫。サークルの森本恒さん(工学部2年)は、「順調に成長し、こんなに収穫できて大成功です。自分たちが作ったと思うと可愛いですね」と笑顔で話しました。また、今後のサークルの活動として「学生目線の大学環境づくりに励み、エコ検定やISOの勉強をしてキャンパスをより良い環境にしていきたい」と抱負を語りました。



## オープンキャンパス2011

平成23年8月9日(火)～11日(木)

8月9日(火)から11日(木)に開催されたオープンキャンパス。3日間で昨年を上回る5,486人(前年は5,066人)の高校生やその保護者が大学を訪れました。各学部では、学科(課程)の紹介、模擬講義、体験実習、施設見学などを実施し、学部の特徴を紹介しました。また、オレンジ色のTシャツを着た在学生が、キャンパスを案内する岐大ツアーやトークコーナーなども実施。在学生ならではの企画で、岐阜大学の魅力を伝えました。猛暑にも関わらずたくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。



## 祝! 国体出場 ～なぎなた～

地域科学部3年生の大橋あゆみさんが、10月に開催された「おいでませ! 山口国体」の岐阜県代表選手として出場しました。なぎなた競技には、「試合」と「演技」の2種類があり、大橋さんは「試合」に出場しました。「試合」は防具をつけ、定められた部位(面部、小手部、胸部、脛部、咽喉部)を確実に早く打突して勝負を競います。

結果は、沖縄県代表に惜しくも敗れましたが、岐阜県代表として素晴らし

い活躍をしてくれました。大橋さんは「今回は残念な結果でしたが、ぎふ清流国体をめざして練習に励み、もう一度挑戦したいと思います。」と抱負を語っていました。来年度のぎふ清流国体での活躍に期待したいです。がんばれ大橋さん!



## 第1回 リアル熟議

### 「よりよい就職のために」

平成23年6月17日(金)

就職・キャリア形成における課題を見つけ、その解決策を作り出すことを目的に、鈴木寛文部科学副大臣(当時)を招いて、第1回リアル熟議「よりよい就職のために」を開催しました。キャリアセンターのサポートのもと、「岐大発! 熟議推進委員会」の学生が主催・企画・運営。学生、企業、自治体関係者及び大学教職員など118人が参加しました。

内定を取ることを目的とせず、人生設計やキャリア設計を見据えた上で職業や企業を選択するよりよい就職について、熱心で活気ある議論を展開。鈴木副大臣

(当時)による講評では、「熟議は答えを聞きだすものではなく、自分たちで見いだすこと。ここで得た発見を五感で理解し、次の行動へとつなげてほしい」と激励。参加者全員が共通のテーマに対して、根底にある問題や解決策、新たな取り組みに向けての認識を一つにするなど、有意義な一日となりました。キャリアセンターでは、学生のキャリア形成に繋がる自主的な活動を、今後も支援していきます。



## 東北地方太平洋沖地震

### 現地調査緊急報告会を開催

平成23年4月5日(火)

東北地方太平洋沖地震の発生を受け発生が予想される大規模海溝型地震において、中山間地を広く抱える岐阜県の対応に焦点を絞った緊急現地調査を実施。その報告会に教職員・学生、行政関係者ら約150名が参加しました。地震工学を専門とする杉戸理事からは、東海・東南海・南海地震の想定断層モデルと比較した解析結果の報告が、森口工学部助教からは、液状化や土砂崩壊による家屋や道路への被害報告がありました。質疑応答も活発に行われ、予想される大規模地震への備えをする契機となりました。

## 創立62周年の記念日をお祝い

平成23年6月1日(水)

岐阜大学の創立62周年を記念して、講堂にて記念日行事を開催。教職員ら約270名が出席し、記念日を祝いました。森学長が「岐阜大学の現状と報告」と題し、教育、研究、国際化及び社会貢献について、新たな取り組みの報告と今後の方向性を述べ、第2期中期目標を踏まえた「岐阜大学のビジョン」達成に向けての決意を示しました。また、記念講演や管弦楽団による演奏、コーラスクラブの合唱も行われました。



## 第29回・第30回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成23年4月27日(水)・6月1日(水)

岐阜大学では、優れた学問を発展させてきた一流の研究者による講演会を定期的に開催しています。4月27日(水)には本学の卒業生である京都大学iPS細胞研究所の山田泰広教授による「再生医療実現に向けたiPS細胞研究」の講演が、6月1日(水)にはNPO法人防災情報機構会長で元NHK解説委員の伊藤和明氏による「地震列島の宿命」と題した講演がありました。参加した学生や若手研究者は熱心に話に聞き入っていました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

## 第22回 岐阜シンポジウム

### 「いま ぎふ ができること」

平成23年7月15日(金)

環境、バイオ、情報、教育などの21世紀の重要テーマについて、研究成果を社会に発信する「岐阜シンポジウム」。7月15日(金)に第22回が開かれ、能島工学部教授と国土交通省中部地方整備局の野田徹氏がそれぞれ講演。パネルディスカッションでの呼びかけに対し、コーディネーターの杉戸理事は、超広域災害に備えて今岐阜でできることとして、「周辺自治体との連携を核とした防災拠点ネットワークの構築や地震への正しい理解と共通認識」などを進言しました。